

室伏スポーツ庁長官

東京'25世界陸上日本代表選手団が表敬



室伏長官(前列中央④)、日本代表選手団、スポーツ庁幹部ら

東京2025世界陸上競技選手権大会の日本代表選手団らが9月26日、スポーツ庁の室伏広治長官を表敬訪問した。日本代表選手は、女子20km競歩で銅メダルの藤井菜々子選手、男子110mハードルで第5位入賞の村竹ラシッド選手、男子400mで第6位入賞の中島佑気ジョセフ選手ら7名が出席した。

はじめに、東京2025世界陸上財団の尾縣貢会長、日本代表選手団の山崎一彦チームリーダーがあいさつ。山崎氏は「室伏長官とは現役時代が重なっており、海外で転戦するなか日本人が海外で強く活躍することを話し合っていた。あの頃の思いをつなげ、それを汲んでくれている選手たちが、今回の世界選手権で活躍してくれた」と語った。

続いて、室伏長官があいさつの中で「日本代表選手の皆さんが素晴らしい活躍をされたことを心より祝い申し上げる。連日満員となった国立競技場には延べ約62万人もの観客が来場した。非常に大きな声援が選手の背中を力強く押し、皆様が持てる力を最大限発揮する原動力となったと思う。皆様が得られた経験と成果が、今後さらなる挑戦と飛躍につながることを期待する」と述べた。

その後の全体懇談では、室伏長官と日本代表選手一人ひとりの懇談が行われた。



職員代表から花束を受ける室伏長官④

私は今日で退任ということになります。皆さんと志、目標は一つです。スポーツは人と人をつなぎ人生を豊かにしていくものだと思っています。スポーツで培った絆を前進する力に変えて、引き続き未来の日本、そしてスポーツ界のために力強く頑張って頂きたいと思っています。本当に5年間お世話になりました。ありがとうございます。

室伏スポーツ庁長官が退任挨拶

5年間の任期全う「皆さんいろいろな種まいた」

スポーツ庁の室伏広治長官は9月30日、任期満了を迎え、職員に向けた退任挨拶を文部科学省第2講堂で行った。

室伏長官は「スポーツの可能性を追求し、皆さんといろいろな種をまいた」と述べるとともに、在任5年間における職員はじめ関係者の支えに感謝を述べた。

室伏長官の挨拶概要は次の通り。

国のスポーツ行政を担うということで、その重責を引き受けまして、これも皆様の支え

があつて成し遂げられたことだと思っています。所信では、『感動して頂けるスポーツ界』を目指すということで、最後までその所信を貫いてまいりました。これ以上ない形で支えていただき、実現してきたと思います。

様々なスポーツの可能性を追求させて頂き、皆さんと一緒にいろいろな種をまいたと思います。すぐに芽が出るものもあれば、やはり年数がかかるものもあります。部活動のこともそうかと思えます。育つて実になるところまでしっかり見届けるところが大事です。それぞれ成長の速度があります。すぐに結果が出ないからとギブアップしないで、そういうときは、課を超えて連携することで仕事が大いに進む、解決することも多々あると思います。皆様のなかでは是非そういった連携を深めて頂くことにより、さらにスポーツ行政が推進されることを期待しています。